

# 巻 頭 言

大阪医科薬科大学看護学部 教授 赤澤 千春  
(Chiharu Akazawa)

本雑誌は、大阪医科大学看護学部における教員等の研究成果を広く看護界に発信し、看護学の向上と発展に寄与することを目的として、看護学部が開設された年度に創刊され、この度、第12巻が発刊されました。

2021年4月をもって、大阪医科大学と大阪薬科大学は統合され大阪医科薬科大学となりました。医学部・薬学部・看護学部の3つの医療系学部を持つ総合大学として、さらなる発展を目指し教職員一同邁進していく所存です。その第一歩として、教員たちの日ごろの研究の成果を発表できましたことをうれしく思います。2020年の年明けからあっという間に世界中に蔓延し、日本でも感染状況の拡大と収束を繰り返し、それまでの日常と異なる日常を過ごすことを余儀なくされました。それは研究においても同様で、データ収集に苦慮する日々でありました。通常よりも研究期間を延長せざるを得ない中、新しい試みと努力でまとめ上げた論文です。このような状況でも研究を続けておられる研究者（教員）の方々に敬意を表したいと存じます。より多くの方々にお届けできれば幸いです。

また、本雑誌への投稿は大阪医科薬科大学に関連している教員、看護職であれば誰でも投稿ができます。臨床で感じた課題に対して解決法として研究という手法を用いて取り組み、その成果を是非文章にして論文として発表していただければと思います。研究が学会発表だけで終わらず、論文化された暁には多くの臨床家の方々の目に触れる機会があります。看護研究は研究をすることが目的ではなくて、得られた結果が臨床で活用されて初めて意味を成すものです。それから、大阪医科薬科大学看護研究会も毎年3月に開催されます。研究会では途中経過での発表も可能ですし、参加者からの貴重な意見も聞く機会となります。多くの看護研究者・看護職の皆様の研究会並びに本雑誌への投稿をお待ちしております。